

# トラック輸送情報（平成19年6月分）

平成19年9月20日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

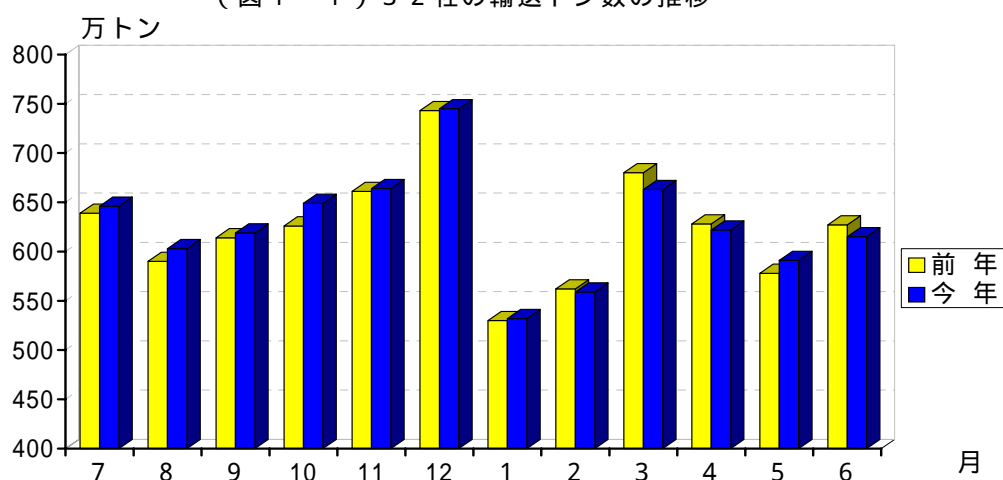
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,146,017トンで、前月と比べ総輸送量が約23万トン増加したため、前月比104.0%（季節調整済み97.7%）となり、前年同月との比較では、約12万トン減少したため、前年同月比98.0%の実績であった。

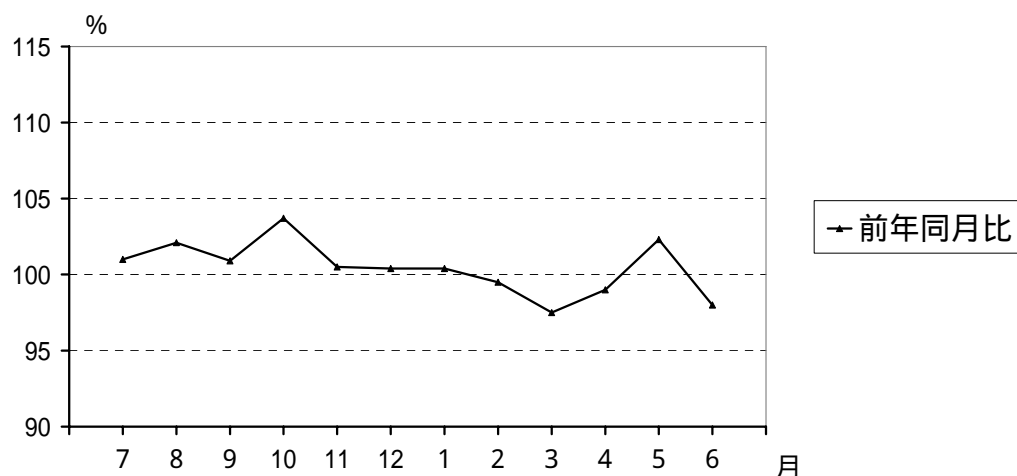
なお、平均稼働日数は25.0日で、前月と比べ1.6日の増加、前年同月と比べ0.3日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、245,841トンで、前月と比べ約7千トン減少したため、前月比97.3%となり、前年同月との比較では、約2千トン減少したため、前年同月比99.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

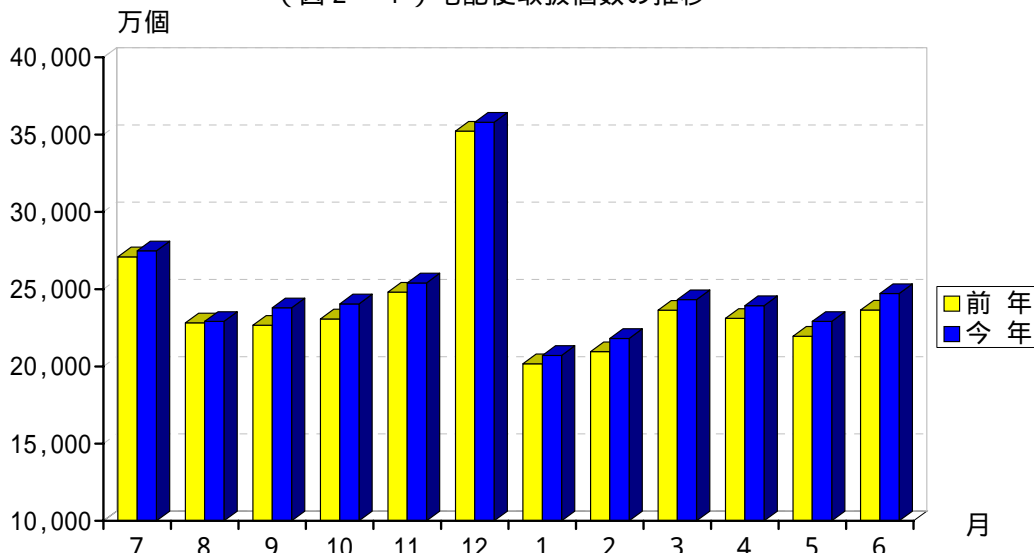


(2) 宅配便の概況

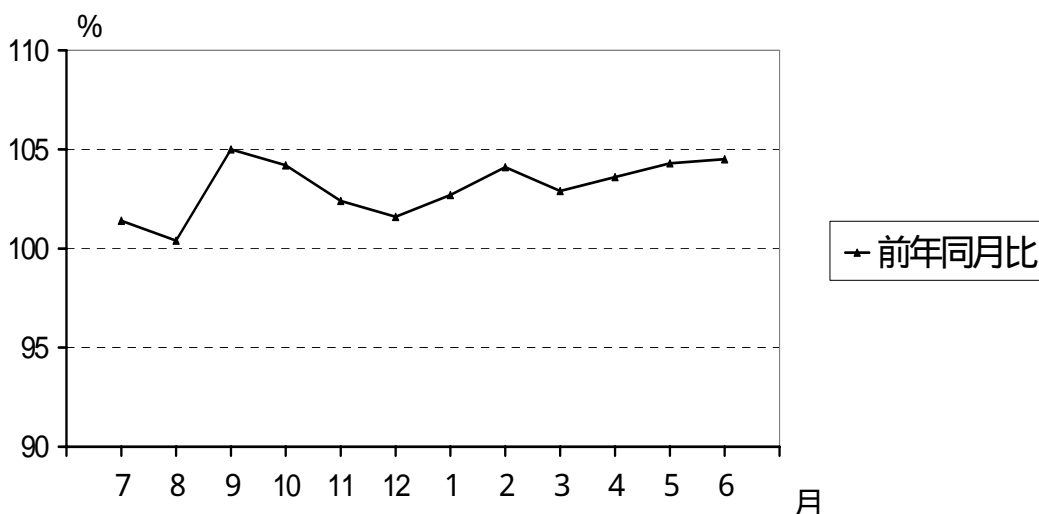
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、247,159 千個で、前月と比べ約 1,808 万個増加したため、前月比 107.9% (季節調整済み 98.9%) となり、前年同月との比較では、約 1,072 万個増加したため、前年同月比 104.5% の実績であった。

(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数が増加したため貨物量が増加した。品目別では、全ての品目で増加回答がみられた。増加要因としては、主に工場・生産地からの貨物増及び倉庫から出る貨物増であったが、「食料工業品」及び「その他 (宅配便・百貨店配送品)」では季節的需要による増加もみられた。地域的には、「農水産品」が東北、中国で、「繊維工業品」が関東、中国で、「金属製品」、「化学工業品」、「食料工業品」及び「日用品」については、ほぼ全国的に増加した。

前年同月と比べると、貨物量は 5 月に 4 ヶ月振りに増加に転じたものの、今月再び減少に転じた。「機械」のように一部増加がみられた品目もあるが、「金属製品」、「化学工業品」、「食料工業品」及び「日用品」で主に工場・生産地からの貨物減及び倉庫から出る貨物減を要因とする減少回答が多かった。地域的には、「金属製品」が関東地方、北陸信越、愛知及び大阪で、「化学工業品」が神奈川、関東で、「食料工業品」が愛知で、「日用品」が関東地方、九州を中心にそれぞれ減少した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	3	13		野菜、青果物	東北、中国	4
	金属製品	1	6	19	1	その他の金属製品	東京、関東、中部地方、大阪、兵庫、中国、福岡	4, 7
	機械	1	11	15		電気機械、その他の機械、機械部品	関東地方、中部地方、近畿地方、九州地方	4, 7, 8
	化学工業品	1	9	20		その他の化学工業品	東北、関東、大阪、兵庫、福岡	4, 7
	繊維工業品	2	5	22		織物	関東、中国	4
	食料工業品		11	15	1	飲料、その他の食料工業品、加工食品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国	4, 5, 7, 8
	日用品	2	7	19	1	書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、東北、関東、近畿、中国、四国	4, 5, 7
	その他	2	7	17	1	宅配便、百貨店配送品	関東地方、大阪	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	14	1		中国	
	金属製品			19	7	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、愛知、大阪	4, 7
	機械	1	4	19	3	その他の機械、機械部品		4
	化学工業品		2	20	7	その他の化学工業品	神奈川、関東	4, 7
	繊維工業品		1	26	2		神奈川、関東	
	食料工業品		1	22	4	その他の食料工業品	愛知	4, 7
	日用品	1	2	17	7	書籍・印刷物、その他の日用品	関東地方、九州	4, 5, 9
	その他	1	3	19	5	宅配便 百貨店配送品		2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 820 社 / 調査対象事業者数 1,072 社）の輸送量は、前月比 106.7%、前年同月比 101.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	106.7%	119.4%	104.5%	103.1%	104.2%	101.6%	106.1%	101.6%	101.6%	100.6%	106.5%
前年同月比	101.0%	103.0%	99.4%	101.7%	102.2%	99.9%	98.8%	98.5%	97.5%	102.5%	109.6%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 119.4%、対前年同月比 103.0%であった。品目別には、建設工事が活発化したことに加え、好天にも恵まれ、「砂利・砂・石材」が前月同様大きな伸びを示し、セメントと併せて工事関連品目が全体の輸送量増加を牽引するかたちとなった。工事関連以外の品目については、季節的需要減により「その他の石油製品」の輸送量が減少する等、一部の品目に輸送量の減少がみられたが、全体的には順調に増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 104.5%、対前年同月比 99.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」、「工業用非金属鉱物」、「その他の製造工業品」等の輸送量が増加したほか、前々月から引き続き「鉄鋼」も増加傾向にある。一方、季節的需要減により「穀物」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減により「木材」、「金属製品」、「セメント」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 103.1%、前年同月比は 101.7%であった。品目別には、「金属製品」、「機械」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 104.2%、前年同月比は 102.2%であった。品目別には、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「金属製品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「非鉄金属」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」、「その他の石油製品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 101.6%、対前年同月比は 99.9%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したほか、デパート・スーパーからの貨物増等により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の農産品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 106.1%となり、前月の大型連休による輸送量減少の反動が若干影響していると考えられる。また、対前年同月比は 98.8%であった。品目別には、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等による「機械」及び季節的需要増による「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減により「金属製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 101.6%、対前年同月比は 98.5%であった。品目別には、季節的需要増による「野菜・果物」とメーカーの増産による「金属製品」の輸送量の増加が目立った。一方、季節的需要減等により、「畜産品」、「水産品」、「鉄鋼」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、夏期繁忙期における「食料工業品」、「取り合わせ品」の輸送量が増える見込みがあるが、軽油価格の上昇による影響が懸念されるため、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 101.6%、対前年同月比は 97.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、建設関係の需要減により「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したほか、季節的需要減により「その他の石油製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 100.6%、対前年同月比は 102.5%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」、「日用品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「野菜・果物」の輸送量が減少したほか、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「廃棄物」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 106.5%、対前年同月比は 109.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「その他の化学工業品（ペットボトル等の合成樹脂）」、「取り合せ品（航空貨物、内航小口混載貨物）」の輸送量が増加した。一方、「その他農産品（花卉）」、「水産品（マグロ）」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減											
1. 穀物	増		1									1		2
	減		2		1							1		4
2. 野菜・果物	増	2	4		1				4	1	2			14
	減		1		2							7		10
3. その他の農産品	増	2							1	1				4
	減	1		1		1						1	1	5
4. 畜産品	増													
	減									2		1		3
5. 水産品	増	4												4
	減	1	1							2		1	1	6
6. 木材	増	5	1		1	1						1		9
	減	2	2						1	1			1	7
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増	1			1					1				3
	減													
9. 金属鉱物	増		1			1								2
	減	1												1
10. 砂利・砂・石材	増	21	3		2	1	2	1	2	1	1	1		32
	減	2	2		2					1	1	8		16
11. 工業用非金属鉱物	増	2	2		1									5
	減									1				1
12. 鉄鋼	増	3	2						1	1	1	3		11
	減	1			3				2	4		1	1	12
13. 非鉄金属	増				3							1		4
	減				1									1
14. 金属製品	増		1	2	2			1	4			1		11
	減		2					2				2		6
15. 機械	増	2	1	2	1	1		2	3			2		14
	減				1			1	1			2		5
16. セメント	増	7			1	1			3			1		13
	減		2							1		4		7
17. その他の窯業品	増		1		1							1		3
	減				1				1			3		5

品目	運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
	増	減											
18. 揮発油	増		1			1							2
	減		1	1		1							3
19. その他の石油製品	増			1		1			1				3
	減		3		1	2				1	1		8
20. コークス・ その他の石炭製品	増										1		1
	減					1							1
21. 化学薬品	増					1			2		1		4
	減					1			3		2		6
22. 化学肥料	増		2		1						3		6
	減			1									1
23. その他の化学工業品	増			1			1	1	2		1	1	7
	減			1		1		1	2	1			6
24. 紙・パルプ	増			1			2	1			4		8
	減				2	1			1	1		1	6
25. 繊維工業品	増							1			1		2
	減						1						1
26. 食料工業品	増		2	4	1	1	2	3	4	3	4		24
	減			2		1	2	2	3				10
27. 日用品	増								1	1	3		5
	減		1						1		1		3
28. その他の製造工業品	増		1	2	1		3	1	1		2		11
	減				3			1	1		3		8
29. 金属くず	増								1				1
	減												
30. その他のくずもの	増					1					1		2
	減												
31. 動植物性飼・肥料	増		4							1	2		7
	減		4		1						1		6
32. 廃棄物	増								1		2		3
	減			1					1		3		5
33. 輸送用容器	増		1										1
	減												
34. 取り合せ品	増			1					1	1	1	2	6
	減				2		1		2		3		8
35. その他	増					1					3	1	5
	減				2	3		2	1		1	2	11